

2020年3月23日付 韓国環境部プレスリリース

京畿道、江原道の野生イノシシから ASF ウイルス検出 (野生イノシシ 416-421 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1358780&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月20日京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)新西面(シンソミョン)で捕獲罠に捕えられたイノシシ1個体と3月21日~22日江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョンゴン)華川邑(ファチョンウプ)および鉄原郡(チョルウォンゴン)鉄原邑(チョルウォンウプ)、京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)漣川邑(ヨンチョンウプ)で発見されたイノシシ死体5個体からASFウイルスが検出されたと3月23日明らかにした。

□国立環境科学院は3月23日イノシシ6個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡(ファチョンゴン)165件、漣川郡(ヨンチョンゴン)157件、坡州市(パジュシ)76件、鉄原郡(チョルウォンゴン)23件、合計421件のイノシシASF陽性事例となった。

○野生イノシシASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体は処理された。

□国立環境科学院は「今回陽性になったイノシシは全て広域フェンスの中で発見された。他にも感染個体が存在するのかわ確認するため、捕獲罠・檻の設置を拡大し、徹底した捜索を通じて感染イノシシを速かに除去する」と明らかにした。

以上